たらいい過ぎになるだろうか．最近住民のニーズが多様化し，行政もそれに対応すべきとの声もきかれるが，それがマジョリティの真のニーズなのか，このような性格の甘えから出ているものかを適確に判定することが先決となろう．よく福祉バラマキ論が論議をよんでいるが，日本人にとってそもそも福祉とは何かを実体として把握しないまま，リソースの配分が行なわれたとすると，逆に日本人の活力を殺ぐ病根を植えつけることになりはしないかを危惧するものである．本分析を通じ日本人社会の秩序と活動に対し，行政の寄与している部分が予想外に多くないことに気がついた．しかし「どうしても行政のなすべき」ことについては，具体例としてあげるまでに至らなかった．

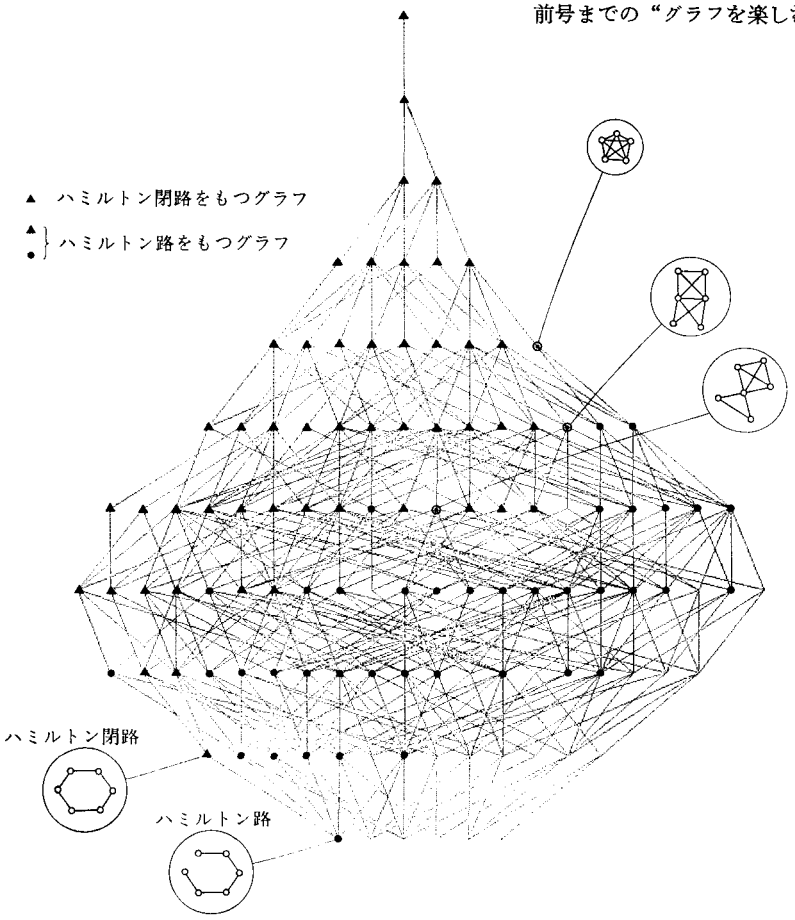
ここで新たな発想として，「もし行政がなかったら」ということを設想して，その場合，何が本当に困るか，社会システムにいかなる損失をもたらすかを分析してみてはどうであろうか．これによって「行政がどうしてもしなければならない」ことが，はっきりと浮きぼりにされると思うが，いかがなものであろうか．

● グラフを楽しむ ●

今回も極大グラフの例です．いもづる式に列挙します．max. non H-cycle (ハミルトン閉路) グラフとは，自分自身では H-cycle をもっていないグラフですが，線を1本どの場所につけ加えても H-cycle をもつようになるグラフです．線で結ばれる2点は，もとのグラフでは H-path (ハミルトン路) の両端点となっています．

(寺野隆雄・坂内広蔵)

前号までの“グラフを楽しむ” 9月号 534頁
11月号 647頁
12月号 747頁



© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．